

絶滅危惧種「トウサワトラノオ」

保全へ校内で栽培

下野市・吉田西小



トウサワトラノオの種を含んだ土を吉田西小の敷地に移す参加者

【下野】環境省から絶滅危惧種に指定されている多年草「トウサワトラノオ」の保存活動を広げようと、吉田西小が17日、校内で栽培を始めた。保存活動が続ける小山北桜高の生徒と協力して保全地から校内に種を含んだ土を移し、育てていく。県内で唯一の生息場所に近いことから、栽培を通して郷土を学び自然学習に生かすのが狙いだ。

(柳木沢良太)

小山北桜高生徒が協力

トウサワトラノオはサクソウ科で30センチほどの茎に約1センチの小さな花が咲く。全国でも下野市と愛知県の2カ所でしか生息が確認されていない。地元住民や同高が保存活動が続けており、咲き終わった花の種が保全地の土に含まれていることが事前の調査で分かっている。

この日は同小の6年生13人と同高園芸科学科の7人



が参加。ことしの開花は終わってしまったが、参加者は東根のトウサワトラノオ保全地で同高の小林正信(40)から取り組みや生育環境などの説明を受けながら保全地を観察。同高生徒がスコップで軽く土を掘り起こし、同小の児童がピ

ニール袋に土を採取した。その後、参加者は同小に移動。雨が流れないよう30センチほど掘り下げた3四方の敷地に土を戻して広げた。トウサワトラノオは約1週間て芽を出す見込み。今後は学習に生かすほか、両校の交流にもつなげ

ていくという。同小6年の神戸志菜(11)は「高校生との活動が楽しかった。下級生にも見てもらえるようしっかり育てたい」。同高2年の稲井虎一君(16)は「小学生にも関心を持ってもらえてよかった。植物を守る大切

さを感じてもらえれば」と目を細めていた。